

グリーンピックス

北海道立林業試験場

No.26

どうなる？2002年春のシラカンバ花粉症 －札幌市での着花調査による花粉飛散量の予測－

これまでの北海道における花粉症の主要な原因は、イネ科などの草本が中心でしたが、近年、札幌などの都市部を中心にシラカンバ花粉症が急増しています。シラカンバの花粉飛散量は年による差が大きく、飛散量が多くなれば花粉に接する可能性が高くなるので、花粉症の人はより注意が必要です。今回は、2002年春の札幌市での花粉飛散量をシラカンバの雄花の着花調査により予測しました。

シラカンバの雄花は5月に開花しますが（写真－1）、雄花がではじめるのは前年の夏で、落葉後には翌春開花する雄花（写真－2）を肉眼で観察することができます。そこで2002年春の花粉飛散量を予測するため、札幌市内の街路樹や天然林においてシラカンバの雄花の着花調査を2001年秋に実施しました。調査の結果、清田区以外の調査地ではいずれの場所でも、シラカンバの雄花数は2000年春の開花数と同程度かそれ以上に多いことがわかりました（図－1）。道立衛生研究所の飛散花粉調査では、2000年春は最近5年間では最も多い飛散量を記録しています。したがって、札幌市の2002年春のシラカンバ花粉の飛散量は2000年程度かそれ以上に多いと予測されます。

今後はこうした予測の精度を高めるとともに、札幌だけでなく道内の他の都市でも花粉予報が提供できるよう研究を進めたいと思います。

（生産技術科）



写真-1 春の開花した雄花



写真-2 秋の雄花

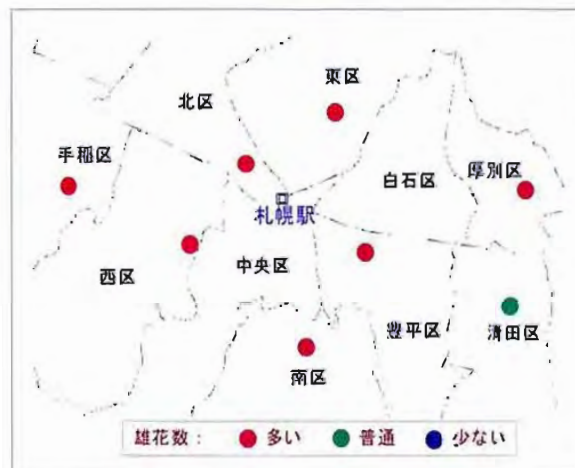


図-1 2001年秋の札幌市におけるシラカンバの着花状況